

## 県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある

### <ポイント>

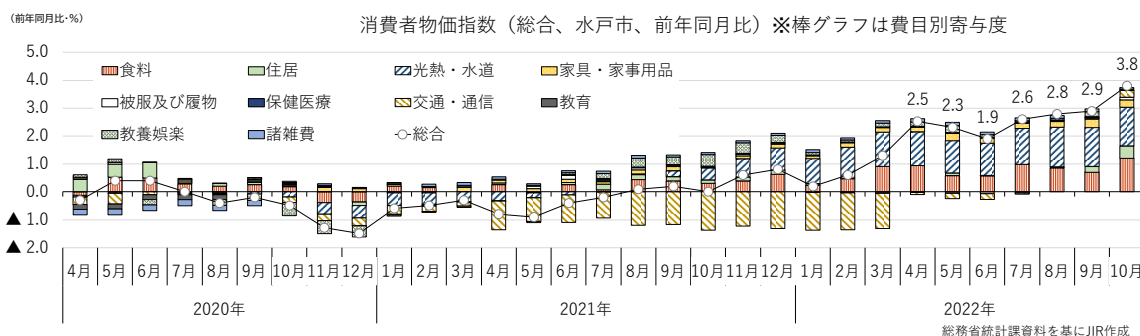
- 1.生産……………10月の鉱工業生産指数（2015年＝100、季節調整値）は101.7、前月比0.7%減と6か月振りに低下した。
- 2.民間設備投資…10月の建築物着工床面積（民間非居住用）は196千㎡、前年同月比30.7%増と3か月振りに前年水準を上回った。
- 3.住宅投資……………10月の新設住宅着工戸数は1,289戸、前年同月比16.7%減と2か月連続で前年水準を下回った。
- 4.公共投資……………11月の公共工事請負金額は262億26百万円、前年同月比14.3%減と2か月連続で前年水準を下回った。
- 5.個人消費……………10月の百貨店・スーパー販売額（全店）は前年同月比1.7%増と3か月振りに前年水準を上回った。11月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は7,894台、同2.0%増と3か月連続で前年水準を上回った。
- 6.雇用情勢……………10月の有効求人倍率（季節調整値）は1.48倍と、前月と同じであった。

### <概況>

県内の生産活動は、供給制約が緩和しつつあることなどから、全体として持ち直している。設備投資は、日銀短観（12月）等の調査結果からは持ち直しつつある。住宅投資は、住宅着工戸数は県南地域を中心に引き続き底堅い需要が窺えることから持ち直しの兆しがみられる。公共投資は、年度累計では前年水準を上回っており持ち直しつつある。個人消費は、新型コロナによる行動制約の緩和を背景に持ち直しつつある。雇用情勢は、新規求人数などの改善傾向が続くなど持ち直している。

統計データや企業ヒアリングを踏まえ、足もとの県内経済の基調判断は「資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある」と前月の判断を据え置いた。

先行きの県内経済についても持ち直しが続くことが期待されるものの、物価高が企業や家計にもたらす影響については注意が必要である。特に消費者物価の上昇ペースは10月の消費者物価指数（水戸・総合）が前年同月比3.8%増となるなど加速しており、マインドへの影響が懸念される。加えて、資源・資材価格や、為替水準の動向、海外経済減速の行方、さらに新型コロナの感染拡大の動向についても引き続き注視する必要がある。



## 生産は持ち直している

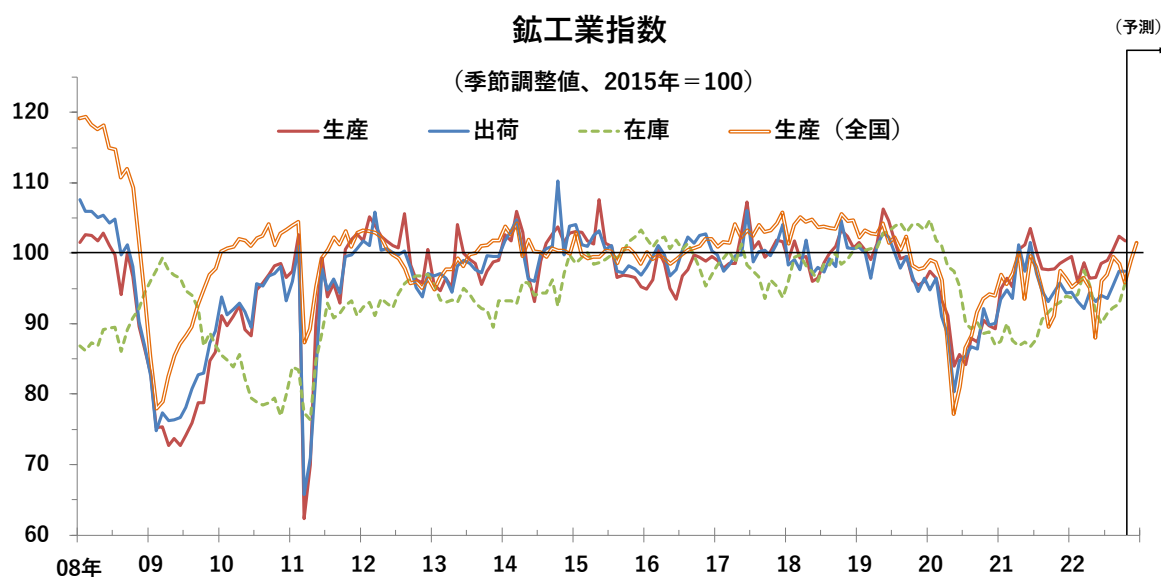
10月の鉱工業生産指数（2015年=100、季節調整値（※1））は101.7、前月比0.7%減と、6か月振りに低下した。

業種別の内訳について寄与度の大きい順でみると、輸送機械（前月比44.5%増）や電気機械（同21.8%増）、電子部品・デバイス工業（同31.6%増）等が全体の指数上昇にプラスに寄与した。一方、食料品・たばこ（同10.8%減）や化学工業（同7.4%減）、生産用機械（同8.0%減）等がマイナスに寄与した。

企業ヒアリング（12月）では、供給制約に関し「受注は増えているものの、部品不足で出荷が滞っている」（電気機械）との声がある一方、「半導体不足が緩和され、従来の生産に戻りつつある」（輸送用機械）、「上海ロックダウン以降、生産は持ち直し。10-12月期は白物家電が特に好調に推移している」（電気機械）との声が聞かれた。生産指数は単月で小幅低下となったが、半導体や部品不足などの供給制約が徐々に緩和しつつあることを踏まえ、生産活動は全体として「持ち直している」と判断を据え置いた。

なお先行きについて企業ヒアリング（12月）では「電子部品の入荷（の正常化）により増産が見込まれる」（電気機械）、「1、2月は減産が続くが、3月は前年を上回る見通し」（生産用機械）等の明るい見通しが聞かれた一方、「来年1月より段ボールが値上げになり、輸送費が上昇見通し」（化学）、「原材料価格が円安によりさらに高騰しており、仕入金額が増加」（繊維）など収益環境の厳しさを指摘する声が目立った。

外需に関係する貿易面についてみると、10月の茨城県内税関3支署の輸出額は1,693億円、前年同月比29.8%増と13か月連続で前年水準を上回った。鹿島は鉄鋼やプラスチックが減少したものの有機化合物等の基礎化学品の増加が寄与し同0.5%増、日立（日立港・常陸那珂港）は建設用・鉱山用機械等が減少したものの、自動車の増加が寄与し、同51.9%増であった。 ※1：原数値から季節的要因を調整した数値



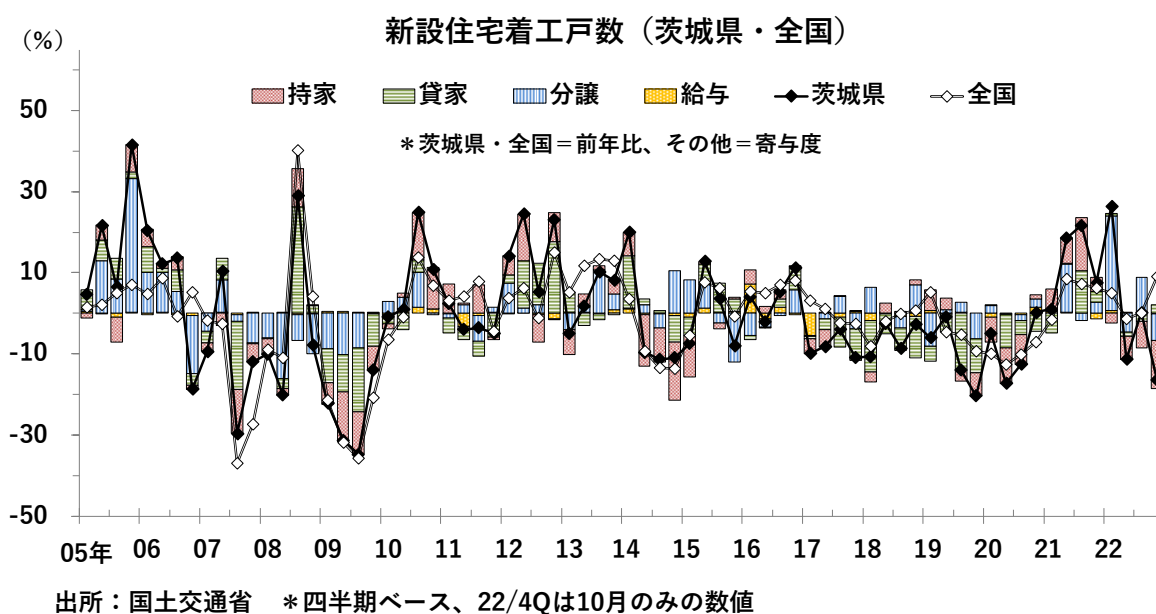
## 設備投資、公共投資は持ち直しつつある、住宅投資は持ち直しの兆し

10月の建築物着工床面積（民間非居住用）は主に倉庫の着工が寄与したことで196千㎡、前月比30.7%増と3ヶ月ぶりに前年水準を上回った。

日銀短観（茨城県、12月）によると、県内企業の22年度の設備投資額（金額ベース、ソフトウェアを含む（除く土地投資額））は、全産業ベースで、前年度比31.3%増（製造業：同51.2%増、非製造業：同0.1%減）の見通し。水戸財務事務所の「法人企業景気予測調査（10-12月期調査）」によると、22年度の県内企業の設備投資額（除く土地購入額、含むソフトウェア投資額）は、全規模・全産業ベースで同8.5%増の見通し（製造業：4.1%増、非製造業：15.7%増）。以上を総合的に勘案し、設備投資は「持ち直しつつある」との判断を据え置いた。

10月の新設住宅着工戸数は1,289戸、前年同月比16.7%減と2か月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、持家は628戸、同24.8%減と2か月連続で減少、貸家は406戸、同3.0%増と2か月振りに増加、分譲住宅は252戸（うちマンション0戸）、同20.0%減と3ヶ月ぶりに減少した。住宅投資は、9月、10月と住宅着工戸数に足踏みがみられるものの、これまでの企業ヒアリングからは県南地域を中心に引き続き底堅い需要が窺えることから「持ち直しの兆しがみられる」との判断を据え置いた。

11月の公共工事請負金額は262億26百万円、前年同月比14.3%減と2か月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、県内工事に占めるウェイトの高い県は同12.1%減、市町村が同12.7%減であった。公共工事請負金額は改善に足踏みがみられるものの、年度累計（4-11月期）では前年同期比11.7%増と相応の水準を維持している。以上を踏まえ公共投資は「持ち直しつつある」との判断を据え置いた。先行きは国や自治体の公共予算執行に伴い持ち直すとみられる。



## 個人消費は持ち直しつつある

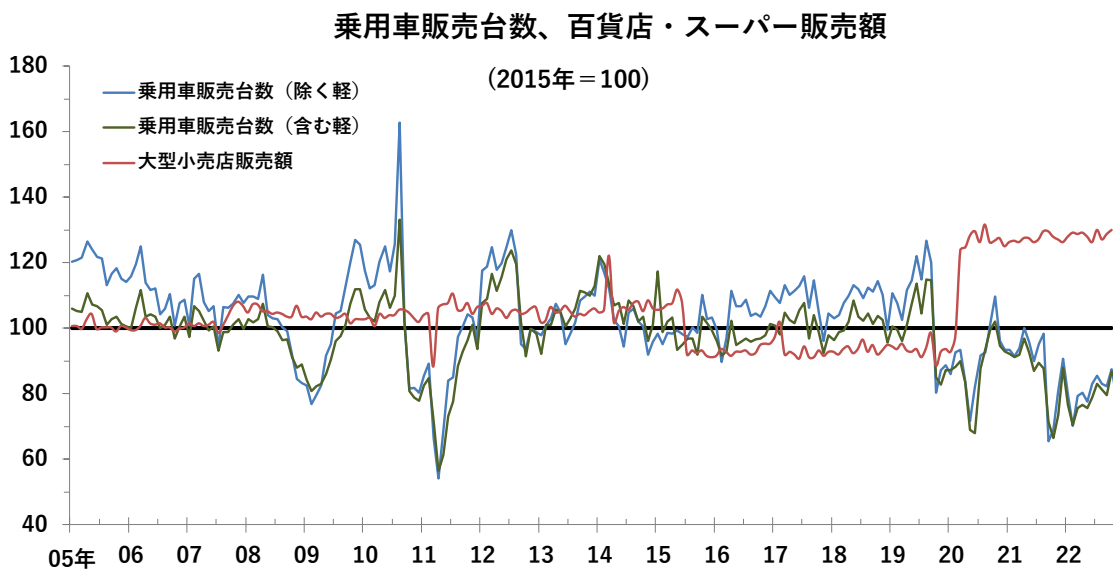
11月の乗用車販売台数（乗用車新規登録台数＋軽乗用販売台数）は7,894台、前年同月比2.0%増と、3か月連続で前年水準を上回った。内訳は、普通乗用車が同2.9%減、小型乗用車が同0.5%増、軽乗用車は同8.5%増であった。乗用車販売台数は、依然低水準ながらメーカーにおける供給制約の緩和に伴い、徐々に持ち直しつつある。

10月の百貨店・スーパー販売額は、全店ベースで前年同月比1.7%増、既存店ベースも同1.7%増と、ともに3か月ぶりに前年水準を上回った。10月の専門量販店販売額は、家電量販店が同4.8%減と2か月振りに前年水準を下回った一方、ドラッグストアは同6.7%増と18か月連続で、コンビニエンスストアが同6.3%増と11か月連続で、ホームセンターは同0.1%増と4か月振りに、それぞれ前年水準を上回った。このところの供給サイドの販売額は月々の振れを伴いつつも、総じてみれば底堅く推移している。

10月の家計消費支出（水戸市）は、前年同月比70.1%増と8か月連続で前年水準を上回った。企業ヒアリング（12月）では、「シニア・シルバー層の来店客数・買上点数がやや回復」（小売業）、「行政施策によりトラベル需要が活発化」（旅行業）、「来場者数は増加」（ゴルフ場）といった声が聞かれた。

このように個人消費は、新型コロナによる行動制約の緩和を背景に、秋口以降は底堅く推移しており、全体として「持ち直しつつある」との判断を据え置いた。

先行きについては、持ち直しの動きが強まることが期待される一方、物価上昇が低所得層を中心とした消費マインドにもたらす影響が懸念される。11月の「景気ウォッチャー調査－北関東－」の家計動向関連DIは44.1、前月比5.6pt減と4か月振りに低下しており、消費マインドの行方については注意が必要である。加えて、同時に新型コロナの感染状況についても引き続き注視していく必要があるだろう。



出所：茨城県自動車販売店協会、経済産業省 \*X-13-ARIMAによる季節調整値、月次ベース

## 雇用情勢は持ち直している

10月の雇用関連指標を季節調整値で見ると、有効求人倍率は1.48倍、前月と同じであった。新規求人倍率は2.47倍、前月比0.08pt増と2か月連続で上昇した。就業地ベースでの有効求人倍率は1.64倍、前月比0.01pt減であった。

有効求人数について雇用形態別にみると、正社員は前年同月比3.2%増、パート・派遣・契約社員等は同4.0%増であった。

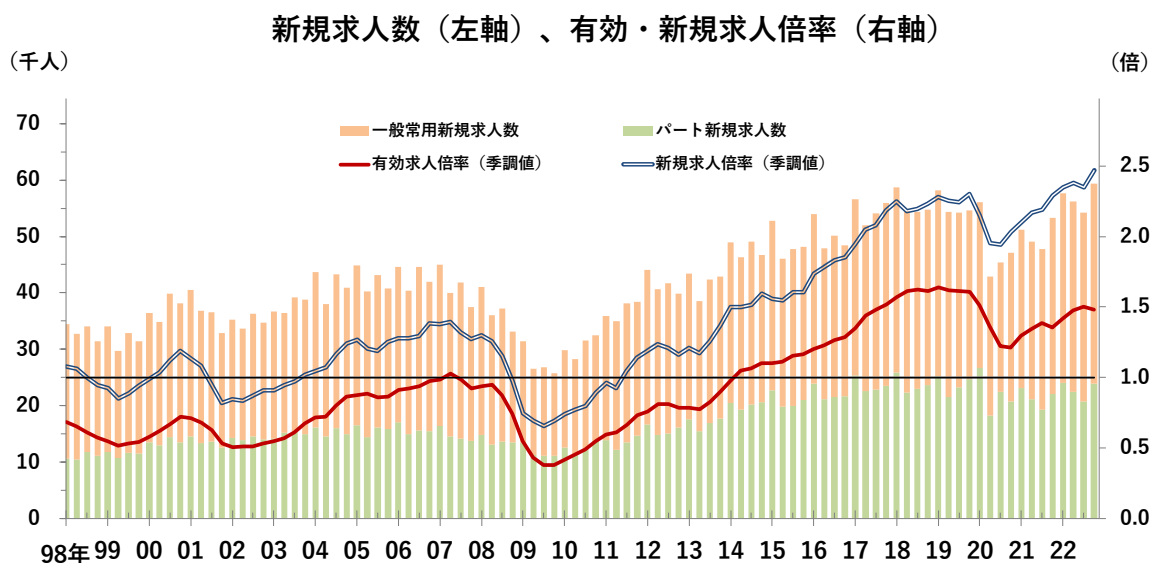
新規求人数は19,789人、前年同月比2.6%減と、17か月振りに前年水準を下回った。新規求職者数は7,432人、同12.3%減と3か月振りに前年水準を下回った。

新規求人数（パートを除く）の内訳を産業別にみると、卸売業・小売業（同4.3%増）、運輸業・郵便業（同8.2%増）などで増加し、製造業（同9.5%減）、建設業（同8.8%減）などで減少した。宿泊業・飲食サービス業は、同22.2%増と7か月連続で増加した。

失業者を示す雇用保険受給者数は8,124人、前年同月比5.3%減と17か月連続で前年水準を下回った。事業主都合離職者数は504人、前年同月比47.3%減と2か月連続で前年水準を下回った。

このように雇用情勢は、有効求人倍率の改善が足もとで足踏みしたもの、新規求人数や雇用保険受給者数の改善傾向が続いていることなどを勘案し「持ち直している」との判断を据え置いた。

なお、日銀短観（12月、茨城県）の雇用人員判断DI（「過剰」-「不足」）は、全産業で「不足」超幅が拡大した（前回9月調査▲37→今回調査▲41）。業種別にみると、製造業が▲27→▲32、非製造業が▲46→▲51と、ともに人手不足感が拡大した。当社の企業ヒアリング（12月）でも「慢性的な人手不足が要因で、引き合い案件を取捨選択している状況」（建設業）といった声が聞かれるなど、経済の正常化とともに企業の人手不足の問題がより一層深刻化しつつある。



出所：厚生労働省 \* 四半期ベース、22/4Qは10月のみの数値

## 茨城県経済動向 基調判断の推移

		基調判断	
2019	4	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	5	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	6	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	7	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	8	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	9	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	10	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	11	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
	12	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる	
	2020	1	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる
		2	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる
		3	県内経済は、弱含んでいる <small>—新型コロナウイルスの感染拡大により、先行き懸念・不透明感が続く見通し</small>
4		県内経済は、新型コロナウイルスの影響により弱い動きとなっている <small>—先行きは更に悪化懸念</small>	
5		県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—製造業・非製造業とも7割の企業で悪影響を実感</small>	
6		県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—自社業況総合判断DIがリーマンショック後に次ぐ低い値に</small>	
7		県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—先行きは感染の第2波の悪影響が懸念</small>	
8		県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—個人消費は底入れしつつあるものの、生産の落ち込みが続く</small>	
9		県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—方向感としては持ち直すも、生産などの低水準が続く</small>	
10		県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
11		県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
12		県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
2021	1	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	2	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	3	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	5	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	6	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	7	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	8	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	9	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	10	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	11	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	12	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
2022	1	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる	
	2	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる	
	3	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により、持ち直しの動きが一服している	
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により、持ち直しの動きが一服している	
	5	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる	
	6	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる	
	7	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる	
	8	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる	
	9	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	
	10	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	
	11	県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある	
	12	県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある	

## 各指標の動向判断の推移

		生産	住宅	設備投資
2021	11	持ち直しの動きが一服している	持ち直している	弱い動きとなっている
	12	持ち直しの動きが一服している	持ち直している	弱い動きとなっている
2022	1	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	弱い動きとなっている
	2	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	弱い動きとなっている
	3	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	弱い動きとなっている
	4	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	横ばい圏内で推移している
	5	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	横ばい圏内で推移している
	6	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	横ばい圏内で推移している
	7	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	足もとでは弱含みにある	横ばい圏内で推移している
	8	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	弱含みにある	横ばい圏内で推移している
	9	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	弱含みにある	持ち直しつつある
	10	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある
	11	持ち直している	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある
	12	持ち直している	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある

		公共投資	個人消費	雇用
2021	11	弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
	12	弱含みにある	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある
2022	1	弱含みにある	持ち直しつつある	持ち直しつつある
	2	弱含みにある	持ち直しつつある 一足元では新型コロナウイルスの感染急拡大により弱含み	横ばい圏内で推移している
	3	弱含みにある	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏内で推移している
	4	弱含みにある	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏内で推移している
	5	弱含みにある	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある
	6	弱含みにある	持ち直しつつある	持ち直しつつある
	7	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直しつつある
	8	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している
	9	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している
	10	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している
	11	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している
	12	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している

「茨城県経済動向」は旧常陽地域研究センター（常陽アーク）が  
1969年より継続してまいりました月例調査を、  
2019年4月以降、常陽産業研究所が継承・実施しているものです

表紙の通番は常陽アーク時の通番を引き継いでおります

常陽産業研究所  
地域研究部  
地域研究センター

- ・本資料は、当社が独自に集計・入手しているデータを除き、2022年12月20日現在で公に利用可能な統計指標に基づき作成されています。
- ・公開されている統計指標は、過去に遡及して改訂されることがあります。
- ・統計指標を利用する際は、常に最新の公表資料を参照する必要があります。
- ・本資料は、統計指標とそれに基づく判断が正確であるよう最善を尽くしておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料に示した将来に関する全ての記述は、現時点での判断を示しているに過ぎません。